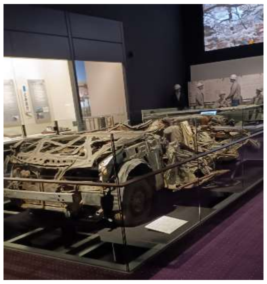
令和８年度品川区連携自治体ワーケーション促進事業
【株式会社バトン社】

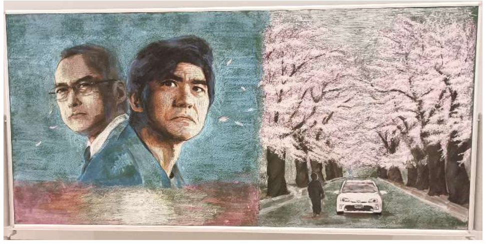
ワーケーション先	福島県富岡町
日程	令和8年7月29日（水）～7月31日（金）
参加人数	2名（親子）
参加の目的	今回のワーケーションでは、福島県富岡町を訪問し、東日本大震災および原子力災害からの復興の現状や、地域での暮らしの変化について理解を深めることを目的とした。 また、出版社として、これまで培ってきた企画編集や情報発信の経験を生かし、富岡町が持つ地域の魅力や復興の歩みをどのように伝えていけるかを考えるとともに、地域との継続的な交流や新たな連携の可能性について検討することを目的とした。 あわせて、親子で地域を訪問することで、子育て世帯の視点から、子どもが地域で過ごす環境や、震災後のまちづくり、地域資源の活用について考えることとした。
実施内容	富岡町では、町内の復興状況や地域の現状を知るため、震災・原子力災害後の地域の変化を感じることのできる場所や、地域の生活・交流に関わる施設等を訪問した。 地域創生課 とみおか暮らし推進課の職員の方からは、復興の進捗や現在の地域が抱える課題、今後の地域づくりについてお話をうかがった。 特に、震災から時間が経過するなかで、単に震災前の状態に戻すだけではなく、新たな地域の魅力をつくり、町外から人を呼び込み、継続的な交流につなげていくことの重要性について考える機会となった。 また、企画課 電算システム管理係兼企画政策係の職員の方からは、「とみおかワーキングベース」というコワーキング施設の活用についてお話をうかがった。 今回の訪問を通じて、富岡町の復興の現状や地域づくりの取り組みについて理解を深めることができた。

事業参加による成果	**（1）富岡町の復興と地域課題についての理解** 　実際に富岡町を訪れることで、震災・原子力災害からの復興について、資料や報道だけではわからない、現地の状況や地域が抱える課題を知ることができた。 　滞在したホテルには復興や地域の整備に関わる作業員の方々も多く宿泊しており、現地では道路などで除染作業が行われている様子も目にした。復興が進んでいる一方で、現在もさまざまな作業が継続していることを実感した。 　また、地域の人口や交流人口、地域内外のつながりをどのように維持・拡大していくかなど、今後の地域づくりについて考える機会となった。 　特に、復興を単に震災前の状態に戻すこととして捉えるのではなく、新たな地域の魅力をつくり、町外から人を呼び込み、継続的な交流につなげていくことの重要性を実感した。 **（2）富岡町の現在の姿と今後の可能性についての気づき** 　実際に富岡町を訪れ、震災・原子力災害から15年が経過した現在も、除染作業が続けられていることを知り、復興にはなお長い時間と継続的な取り組みが必要であることを実感した。 　一方で、町内には学校や商業施設など、生活に必要な環境が整えられており、新たに居住を始める人も多いことを知った。震災からの復興途上にある地域というだけでなく、これから新たに暮らし始め、心機一転生活を築いていく場所としての側面もあると感じた。 　出版社という立場からも、今回の訪問を通じて、富岡町について外部から得られる情報だけでは把握しにくい現在の姿を実際に知ることができた。今後、地域の現状や復興の歩み、新たに暮らし始める人々の視点などを、書籍やウェブ、SNS等を通じて伝えることには意義があると考えた。 　今回の訪問で得た情報や体験をもとに、今後、出版社として地域との継続的な交流や、情報発信・出版等を通じた連携の可能性について検討していきたい。 **（3）子育て世帯の視点から得た気づき** 　親子で現地を訪問したことで、子どもが実際に地域を見て、震災・原子力災害の歴史や復興の歩みについて知ることの意義を感じた。 　また、子育て世帯が地域を訪れ、滞在や交流につなげていくためには、観光施設だけでなく、子どもが安心して過ごせる場所や、親子で地域の日常に触れられる環境があることも重要だと感じた。 　富岡町には、子どもが遊べる場所や学校、商業施設など、子育て世帯が実際に暮らすことをイメージできる環境が整えられていることも印象に残った。こうした生活者の視点から地域を見ることで、観光地としてだけではない富岡町の姿を知ることができた。

今後の連携・発信について	今回のワーケーションで得た経験や情報を、出版社としての今後の企画・編　集・情報発信に生かしていきたい。 特に、富岡町の復興の歩みや現在の地域づくり、地域で活動する人々の取り組みについて、実際に地域を訪れたからこそ得られる視点をもとに、外部から訪れる人にもわかりやすく伝える方法を検討する。こうした取材・編集の経験を、今後の地域や復興に関する企画づくりにも生かしていきたい。 また、今回の訪問の様子や得られた知見について、ホームページやSNS等を通じて発信し、富岡町の取り組みを知るきっかけをつくるとともに、今後の継続的な交流や連携につなげていきたい。

▼とみおかアーカイブ･ミュージアム　▼富岡町図書館





▼とみおかワーキングベース